

【小中学生のオリンピック観戦について】

都内の小中学生が競技観戦に招待されていますが、昨年12月4日の時点で、都内で24自治体の計307の小学校が熱中症を危惧し、辞退する意向を示している。特に、東京都全体の7割以上の学校で1～3年生の参加を見送る方針。

調布市では昨年5月の運動会で熱中症になった生徒が多数出ており、暑さに弱い体質の子どもが少なからずいることは把握済み。少なくとも低学年は参加を辞退するべきではないか。

また、競技観戦の機会提供について「すべての子どもに参加の機会を」との視点が掲げられていることについては、子どもの権利条約の＜参加する権利＞を保障するには、子どもたちに参加するか否かを定める主体者としての権利を認め、学校行事としての強制力が働かない範囲で、自由に参加する機会を提供する形を取るべき。

<答弁>

調布市は、オリンピック・パラリンピックの開催地であり、市立小・中学校の全ての児童・生徒が市内の競技会場で観戦できるよう、調布市教育委員会が都に要望し、調整済み。

観戦する競技によっては、屋外の観戦となる場合もあり、熱中症に対しては十分な注意が必要だが、自分たちが暮らすまちでオリンピック・パラリンピックを観戦できることは、有意義な体験になるものと考えます。

また、取り組んできたオリンピック・パラリンピック教育をベースに競技観戦することは、教育的効果の観点からも貴重な取組であると認識。熱中症対策をはじめとする、安全面に十分な対策をとった上で、児童・生徒が観戦できるよう、教育委員会と連携して進めていく。